

R 6 年度 荻谷小学校 学校評価のまとめ

12月上旬に実施した「教育活動診断票（アンケート調査）」へのご協力、ありがとうございます。その結果をもとに、1月30日に「学校運営協議会」を開催し、10名の委員の方とアンケートの分析を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

○対象 保護者全員（回収率95.1%） 児童 4年生以上（142名）
 ○分析 4段階評価のうち、よくあてはまる（そう思う）とややあてはまる（だいたいそう思う）を合わせたものを肯定的評価ととらえ、それをもとに行っています。
 ※数値に付けた矢印↗又は↘＝前年比5ポイント以上、↑↓＝10ポイント以上の変化を表しています。

<本年度の重点努力目標>

①「かしこい子」（知）の育成に向けて

（・「学ぶ」教室への意識改革と子ども同士が学び合い高め合える教室コミュニティの創造 ・体験活動を重視した学習展開 ・子どもの学習スタイルの確立）

A

・授業は分かりやすい	(児：93.7% → 保：80.6% →)
・進んで意見や感想を発表	(児：57.7% →)
・ペアトークの充実	(児：87.3% →)
・話をしっかり聞く	(児：95.8% → 保：77.9% ↘)
・考えや振り返りを書く	(児：85.2% →)
・家庭での学習（児童：自主的）	(児：76.8% → 保：72.3% →)
・読書が好き	(児：71.8% → 保：42.7% →)
・タブレットの授業が好き	(児：88.0% →)

教員や友だちの話が聞け、ペアトークも充実しており、振り返りが着実にできるという評価で、授業は充実できていると思われる。今後の課題としては、例年低い評価となっている「進んで意見や感想を発表」である。全体の前で発表する力は、今後重要視される力であり、幼い頃に人前で発表することに対する抵抗感を取り除いておきたい。確かにタブレットでの意見の共有は効率的ではあるが、時間をかけても授業や行事を通して発表の機会を増やすこと、友だちの意見を受け入れ共に考える雰囲気をつくることにより一層取り組む必要があると考える。

読書については、7割以上の児童は読書が好きだと答えており、図書委員会が企画するイベントや本の紹介、読み聞かせボランティアの方々の働きかけで、昨年度よりも若干向上した。家庭でさらに働きかけてもらえるよう、保護者への呼びかけを継続したい。

②「あかるい子」（徳）の育成に向けて

（・体験活動を充実し、人のために働ける荻谷小文化の創造 ・道徳教育での自己内対話の重視 ・折れない心の教育 ・道徳教育、キャリア教育の充実）

A

・学校へ行くことが楽しい	(児：85.2% ↘ 保：87.7% →)
・あいさつや返事	(児：99.3% → 保：80.2% →) ※1
・約束やきまりを守る	(児：92.3% ↘ 保：82.6% →)
・学級の子や異学年の子との協力	(児：97.9% → 保：94.9% →)
・学校行事は楽しい	(児：92.3% ↗ 保：92.5% →)
・係活動やそうじに進んで取り組む	(児：97.9% →) ※1：⑤とあわせた質問

「きまりよく」の校訓のもと、全体としては落ち着いた生活が送れている。学級の子や異学年の子との協力や縦割りの活動も充実しており、学年を超えて良好な友人関係が築かれ、温かい心が育まれていることを感じる場面が多く見られた。この姿は、本校の特徴でもあり、登下校の安全も含め、上級生から下級生に良い伝統が受け継がれているので大切にしていきたい。

どの項目も高い評価ではあるが、「学校へ行くことが楽しい」の項目がやや下降している。友人・行事・授業等の学校生活についての項目は高い評価であるので、複合的な要因だと思われる。今

後も、児童の姿を注視していきたい。

③「げんきな子」(体)の育成に向けて

- (・「すこやかタイム」を生かしたバランスのとれた体力づくり
・学校保健委員会の充実と食育の推進 ・防災・安全教育の推進)

A

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ・早寝・早起き・朝ごはん | (児：75.4% ↓ 保：83.4% →) |
| ・体力向上への取り組み | (児：90.1% ↗ 保：88.1% ↗) |

「早寝・早起き・朝ごはん」については、これまで児童・保護者とも徐々に向上してきた。児童の中で一番下落した項目となったが、保護者の評価は高く、児童の生活習慣が崩れている可能性は低いと考えられる。食育や保健の授業で、児童の健康に対する意識の高まりがこういった結果をもたらしたとも考えられなくはない。今後も、学校保健委員会、食育や保健の授業、保健委員会の取り組み、保健だより、給食だよりといった地道な取り組みを継続していきたい。

④安心・安全で生活しやすい環境づくりに向けて

- (・「心の居場所」づくりといじめの未然防止・早期発見 ・個別の支援)

B

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ・ルールを守った情報機器の使用 | (児：85.4% → 保：71.9% →) |
| ・相談できる友達がいる | (児：78.9% ↘ 保：81.4% →) |
| ・子どもが先生に相談 | (児：69.7% ↗ 保：68.0% →) |
| ・学校のことをよく話してくれる | (保：85.8% →) |
| ・先生と子どものことを相談 | (保：84.2% ↘) |
| ・通学班で安全に登下校 | (児：94.4% ↗ 保：92.5% →) |
| ・いじめや問題行動への指導 | (保：82.2% →) |
| ・良さを見つけ、認め、励ます指導 | (保：83.4% ↘) |

児童と教員との関係を示す、「子どもが先生に相談」は親子とも向上し、教員と保護者との関係を示す、「先生と子どものことを相談」は若干下降してはいるが、昨年急上昇した項目であり、過去10年で見ると2番目に高評価であった。今後も、児童・保護者との会話を大切にして、信頼関係がより強固となる取り組みの継続と、数値こそ低くはないが「良さを見つけ、認め、励ます指導」について、職員全体で向上に努めていきたい。

児童同士の関係については、「相談できる友達がいる」の項目は、過去10年で一番低い評価であった。前述②の評価から友だちへの協力はできているので、より一層つながりを深められるよう児童同士がかかわる機会の充実に取り組んでいきたい。

安全面については、概ね高い評価であり、登下校や放課での行動やタブレット(電子メディア)活用のルールの遵守に今後も注視し、見守っていききたい。保護者に対しても便り等で呼びかけ、子どもたちの健康的な生活習慣形成のために家庭と連携していきたい。

⑤学校・家庭・地域の連携・協働に向けて

- (・通信、HP等の充実 ・地域の教育資源(ひと・こと・もの)を活用した「特色ある」教育活動の展開)

A

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ・地域の人へのあいさつ | (児：99.3% → 保：80.2% →) ※1 |
| ・教育活動等の情報発信 | (保：92.5% →) |
| ・不審者のへの対応 | (保：89.3% →) |
| ・自然災害への対応 | (保：85.8% →) ※1：②とあわせた質問 |

本校では、全校でのサツマイモ栽培や5年生の稲作、3年生のイチゴ栽培等、地域の方々からご指導いただいて教育活動を進めている。交通立番、読み聞かせ、親子活動、資源回収、美化作業等、保護者の方々にも支援していただいている。今後も、こういった活動を活発にしていこうことや、学校の様子をホームページ等で広く発信して多くの人に知ってもらうことで、地域コミュニティとの関わりを保っていききたい。

また、最近多くなってきたゲリラ雷雨等、自然災害への対応についても、スムーズな引き渡しができるよう対応を工夫していきたい。